

第 23 回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」の報告書

12月20日(水)に14名(他教室など4名を含む)で開催いたしました。今回の題花は日本原産のトコロ・トコロズラ(野老)です。なじみのない植物でしたが伺ってみると私たちのよく知るヤマノイモ属で、トコロや自然薯などの野生種とナガイモや大和イモなどの栽培種があります。トコロは「味苦く食うべからず」とされていますが、青森の南部では時間をかけて煮込んだ物がやみつきになる「魔性のイモ」と呼ばれたとのことで一度食べてみたいと思いますが、残念なことにほとんど出回っていないそうです。



トコロ(葉はハート型で対生)

花弁は6弁



老人の髭のような根茎。長寿を願って正月の飾りに使う地域もある。

万葉集ではトコロは2首詠まれています。1首は高橋連蟲麻呂(たかはしむらじのむしまろ)の長歌です。二人の男性に求婚された美しい菟原処女(うないおとめ)が賤しい自分のために二人の勇者が争うのは耐えられないと自害します。あの世で待ちますとの彼女の夢を見た茅渟荘子(ちぬおとこ)は命を絶ち、残された菟原荘子(うないおとこ)もところ葛がつながるように後を追ったという悲しい歌です。似た話の真間の手児奈の歌も教えていただきました。この長歌には6個の枕詞が使われていて、そのうちの倭文手纏(しづたまき)が「賤しい」にかかる理由を教えていただき、なるほどと思いました。この時代、裕福な人は魔除けに高価な石を使った腕輪をしましたが貧しい人は麻などを赤や青に染めて縞模様に織った安価な古代布=倭文織(しづおり)の手纏(たまき)=腕輪をしたからだそうです。長歌に続く反歌2首も紹介いただきました。反歌の1首は処女は実は茅渟荘子の方が好きであつたらしいとの歌でいっそう哀れに思われました。地元以外の人との結婚は反対された時代の伝説ですが、今もそのような地域があると先生のお話でした。

続けて源氏物語や枕草子に出てくるトコロの描写や、倭文手纏のようにたいした身でもないが千年でも長生きしたいという山上憶良の歌も教えていただきました。

歌をいつものように皆で唱和しました。特に意味よりも音とリズムの美しさが重要といわれる長歌の調べを堪能しました。

※集合写真には今回から支部の小旗が登場です。



先生の着物はトコロのたくさんの雄花がちりばめられたような小紋(江戸小紋)で、帯と羽織は倭文織のイメージ。帯留はトコロ(野老)にちなんで翁(おきな)の面(おもて)でした

次回第24回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和」のお知らせ

令和6年2月21日(水) 10:00 ~ 12:00 プララ杉田505号室

参加費 1,500円 参加申し込みは長谷川嘉子にお願いいたします mondlicht.y.20@gmail.com

令和5年12月27日 文責: 三浦美智子・高木紀世子

5日前からのキャンセルは参加費をいただくのでよろしくお願いいたします (資料は後日お渡しいたします)

◎2月21日に都合の悪い方は講師に直接ご連絡ください。 paksara3t@gmail.com